人

バングラデシュの病院設立に協力、医療機器提供に取り組む

岩井（いわい）くにさん

自治医大卒。県立釜石、軽米両病院を経て、平成4年陸前高田市の国保広田診療所長。同市広田町字天王前5の1。一関市出身、32歳。

日本に留学中のバングラデシュ人医師三人が三月末に帰国、首都ダッカに今夏、日本・バングラデシュ友好病院を開設する。所属するアジア医師連絡協議会（AMDA）日本支部が全面協力している。

「バングラデシュは外科が遅れているが、三人のうち二人は外科医。日本で学んだ技術を生かして先端医療に取り組むと言っており、医療レベルを上げてほしい」

病院設立を支援するため、医療機器の調達に奔走。移転改築された県立宮古病院から不要になった手術台や分べん台、保育器などがバングラデシュに送られる。

大学時代、アジア医学生会議（AMSA）で活躍し、国際会議にも出席。県立釜石病院時代の昭和六十一年、AMDAに入会した。

「当時はAMSAを卒業した人がAMDAに入るような雰囲気だった。だから明確な動機はなくただ何となく…」と笑う。

海外への医師派遣については「興味があっても収入や帰国後の身分の保障がなく、二の足を踏んでいる医師が多い」という。

県内のAMDA会員はまだ二人だが、これまでに外国人の医療問題を考えるパネルディスカッションへの協力や県国際交流協会が作成した外国人医療ハンドブックを執筆。外国人が地域住民として自立できるようにサポートしたいーと意欲を燃やす。

タイのカンボジア難民キャンプに医療機器を送ったり、バングラデシュのミャンマー難民キャンプで活躍する医師に白衣を提供。医療を通じて国際貢献を続けてきた。

県内外の山を歩きながら野生植物の写真を撮るのが趣味。現在は医療器具の通関手続きや外国人医療アンケートの取りまとめ作業で忙しい。独身だが「彼氏より寝る時間が欲しい」ー。

《自己診断》凝り性。

（作山充記者）

岩手日報 3/12